市政に対する 一般質問

９月定例会では２２人の議員が市政全般について質問を行いました。
※一般質問は、議案に関係なく、市の行政事務について市長および執行機関に質問することで、越谷市議会では１人１時間を目途に行われます。

Q 葛西用水の世界かんがい施設遺産認定について

こしがや無所属の会　**大野　恭子** 議員

問　本年８月２１日に葛西用水が世界かんがい施設遺産に認定されたが、維持・活用についてどのように取り組むのか。
市長　土地改良区と連携し、葛西用水と水辺環境の維持・活用に努めていく。
問　その歴史的価値をこども達に伝えるため、社会科の副読本に再掲する考えは。
教育長　今回の認定を踏まえ、再掲について社会科副読本「わたしたちの越谷」の編集委員会に適切に情報提供していく。

Q 福祉サービスを活用した高齢化に伴うごみ集積所の分別カゴ出し・片付けの負担軽減について

立憲民主党越谷市議団　**小口　高寛** 議員

問　カゴ出し・片付けについて、既存の福祉サービス等を活用して地域と一緒に取り組んでいく考えは。
市長　カゴ出し・片付けに関して困りごとの相談を受けた際は、それぞれのサービスについて適切に案内できるように努め、今後も、実情に応じた支援の在り方についても、関係機関と連携を図るとともに、他自治体の事例も参考にしながら調査・研究を進めていく。

Q 包括的性教育の実施について

無　所　属　**大田 ちひろ** 議員

問　こどもを性被害から守るために、正しい知識を伝えることが重要となっている。現在、市が行っている「生命（いのち）の安全教育」に人権という観点を含め、体系的に学ぶ包括的性教育を実施する考えは。
教育長　各学校における「生命（いのち）の安全教育」の充実に向け、効果的な実践事例や外部講師の紹介を含め、校長会や研修等で周知するなど、包括的性教育について取り組む。

Q 消防団の配置について

日本維新の会　**小林　成好** 議員

問　南越谷地区など消防団の分団がない地域の災害の応援体制は。
消防長　消防団の分団がない地域は近隣の消防団が受け持っている。この地域の災害は、空白が生じないよう、まず受け持ち分団が状況に応じて出動し、必要に応じて近隣分団が出動する体制となっている。また、自治会などとの連携については、平時から連携体制の確認をし、地域の防災力向上に努めている。

Q こども誰でも通園制度の利用状況について

ＮＥＸＴ越谷　**武藤　智** 議員

問　現在、１０施設で実施されているが、空白地や地域格差は生じていないのか。
市長　実施施設の所在地については、市内で均等になっておらず、地域によっては希望通りに利用ができていない。今後は、保護者のニーズにお応えできるよう、市内全域に施設の整備・拡充に努める。
問　公立保育所で実施していないが今後、実施する考えは。
市長　現在の状況では受け入れは難しい。

Q ＡＩデータセンター建設規制について

日本共産党越谷市議団　**大和田　哲** 議員

問　さいたま市北区の住宅地に建設されたＡＩデータセンターを取材した。地域の環境破壊につながると住民が証言している。本市では建設規制できるのか。
市長　ＡＩデータセンターは、膨大な消費電力や、稼働に伴う騒音、排熱、非常用電源のための燃料備蓄など、環境や防災上の懸念等をめぐり、環境に大きな課題がある。大規模の建物となるので、住居専用地域での建設は難しいと考える。

Q 災害関連死を防ぐ手だてについて

日本共産党越谷市議団　**山田　大助** 議員

問　災害関連死を防ぐために、自宅避難や車中泊など、避難所外の避難者を把握し、情報や物資等を届ける必要があるが手だては。また特に高齢者等への配慮の考えは。
市長　避難所の内外に関わらず、避難者の所在や健康状態を把握するため、市公式ラインを活用した仕組みを、すでに運用している。一方でスマホ等に慣れていない人がいることや、自治会等の対応に限界があることも認識しており、調査検討したい。

Q 農業振興の考え方について

ＮＥＸＴ越谷　**横井　聖美** 議員

問　第５次総合振興計画の進捗状況は。
市長　前期基本計画において、農地利用集積は６地区の集積を目指したが目標達成には至らなかった。新規就農に関わる雇用の就農者研修制度の修了者は累計を１５人としたが、実績は１６人で目標を達成した。
問　市の農地・農業の未来の数値目標は。
市長　農地の集積・集約面積、累計１３４ヘクタール。クワイ、ネギ、イチゴ、コマツナ、山東菜などの認知度４６％。

Q 市公式ホームページにおける補助金・助成金等の検索性向上と一元化について

公明党越谷市議団　**久保田　茂** 議員

問　来年度ホームページ改修の際、市公式ホームページにおける補助金・助成金等、各種行政サービスの検索性向上のための生成ＡＩの導入や情報の一元化を進めては。
市長　次回更新の際には、市民の皆様の利便性の向上と職員の業務効率化を両立する視点で、生成ＡＩの導入について検討し、補助金や助成金等の情報の集約についても、分かりやすくまとめ、スムーズにアクセスできるように整理していく。

Q こどもが安全かつ自由に遊べる公園づくりについて

こしがや無所属の会　**斎藤　豪人** 議員

問　公園での手持ち花火についてお尋ねする。現在、本市では原則として公園での火気使用が禁止されているが、他自治体では期間や時間、花火の種類、人数などを条件に手持ち花火を認めている。本市でも、安全面や周囲への配慮を前提に、条件付きで公園での手持ち花火を認めるよう、ルールを見直す考えはあるか。
市長　他自治体の事例を参考に、ルール改定の可能性について調査検討する。



公園で花火を楽しむ家族
(生成AI作成)

Q 蛍光灯の生産終了を踏まえた取り組みについて

公明党越谷市議団　**藤部　徳治** 議員

問　自治会管理の道路照明灯のＬＥＤ化支援については。
市長　ご提案の重点支援交付金の活用については、道路照明灯のＬＥＤ化を含め、効果的な自治会支援策を調査研究する。
問　自治会館や集会所のＬＥＤ化支援については。
市長　より快適で安全に使用できるよう、各自治会に対して補助金の活用を促すなど、財政的な支援に取り組んでいく。